

平成29年度事業報告について

I. 調査研究事業

1. 海外派遣事業

(1) IT×ゲノム情報（ボストン）

米国のゲノム・ベンチャーは、大学などどどのように連携し、新産業を作り上げているのか。ゲノム情報が持つ大きな可能性の反面、倫理、プライバシーや諸規制等への対応はどのように取り組まれているのか。世界最大のバイオベンチャー都市ボストンにおいて、訪問調査を行った。

期 間 : 2017年4月25日（火）～28日（金）

コーディネーター : 神成 淳司 慶應義塾大学 准教授

メンバー : 篠宮 輝 個人情報保護委員会事務局 上席政策調査員

堀澤 夏実 個人情報保護委員会事務局 係員

坂本 智章 財務省 大臣官房総合政策課 課長補佐

高山 聖 新日本有限責任監査法人 シニアマネジャー

志村 彰洋 電通 主任研究員

織田 周平 日本電気 官公営業本部 係長

石川 晶雄 フューチャーアーキテクト コンサルタント

森 憲司 ヤマトホールディングス デジタルイノベーション推進室マネージャー

齋藤 奈保 国際IT財団 事務局長

日下部裕美子 国際IT財団 プログラムディレクター

(2) 公共サービスのデジタル変革（英国）

公共サービスのデジタル化に積極的に取り組んでいる英国において、サービスデザインはどのように取り組まれているのか、各政策分野のデジタル化において民間企業はどのような成果を果たしているのか、デジタル変革を担う人材育成はどのように取り組まれているのか、調査を行った。

期 間 : 2017年7月17日（月）～20日（木）

コーディネーター : 澤谷由里子 東京工科大学大学院 教授

メンバー : 岩崎 薫里 日本総合研究所 調査部 上席主任研究員

増田 睦子 行政情報システム研究所 調査普及部 研究員

奥山 宏昭 日本オーエー研究所 代表取締役社長

野村 敦子 日本総合研究所 調査部主任研究員

清水 剛 フューチャーアーキテクト 執行役員 エンタープライズビジネスグループ

齋藤 奈保 国際IT財団 事務局長

(3) ビッグデータとAIが変える産業分野：農業を事例（ドイツ・オランダ）

アグリビジネスを牽引するグローバル・プレイヤー達は、ビッグデータ・プラットフォームにどのように取り組んでいるのか、3,000社の農業IT（AgTech）が一同に会する世界最大の農業見本市「アグリテクニカ」にてアグリビジネスの最新動向を調査するとともに、世界第2位の農作物輸出額を誇るオランダのフードバレーを訪問し、その調査を行っ

た。

期 間 : 2017年11月12日(日)～15日(水)
コーディネーター : 神成 淳司 慶應義塾大学 准教授
メンバー : 吉田 新吾 アグリオープンイノベーション機構 プロデューサー
佐竹 真悟 EduLab 事業開発室
村田 靖雄 オイシックスドット大地 フードイノベーション推進室
本多正俊志 グランドグリーン 共同創業者・取締役
黒田 達也 事業創造大学院大学 副学長・教授
四田 耕三 新日本有限責任監査法人
パブリック・アフェアーズグループ シニアマネージャー
水田 高弘 日本電気 未来都市づくり推進本部 主任
佐藤 拓也 ネクストスケープ 社長室
西原新太郎 フューチャーアーキテクト
アドバンスドビジネス事業部 ディレクター
村上 久治 ヤマト運輸 センターオペレーション部
松木 崇晃 Rhelixa 研究開発部 プロジェクトマネージャー
日下部裕美子 国際IT財団 プログラムディレクター

2. 国内プログラム（海外派遣事業ワークショップ）

(1) IT×ゲノム情報

- ① 2017年4月19日(水) 19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「ゲノム編集応用の実情とアメリカの最新動向」
【講師】慶應義塾大学環境情報学部(SFC)准教授 黒田裕樹氏
テーマ「NEXT GENERATION DRUG DISCOVERY INTELLIGENCE」
【講師】Molcure CEO Co-founder 小川隆氏
- ② 2017年5月17日(水) 19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「個人発表案意見交換・調査報告骨子案についてのディスカッション」
- ③ 2017年6月7日(水) 19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「発表会」

(2) 公共サービスのデジタル変革

- ① 2017年6月19日(月) 16:00～18:00 @紀尾井カンファレンス
テーマ「サービスデザインとは」
【講師】東京工科大学大学院 バイオ・情報メディア研究科教授 澤谷由里子氏
- ② 2017年7月7日(金) 16:00～18:00 @紀尾井カンファレンス
テーマ「サービスデザインによる公共サービスのイノベーション」
【講師】慶應義塾大学経済学部教授
Service Design Network 日本支部共同代表 武山政直氏氏
- ③ 2017年8月22日(火) 16:00～17:30 @フューチャーアーキテクト
テーマ「個人発表・調査報告案についてのディスカッション」

(3) ビッグデータとAIが変える産業分野：農業を事例に

- ① 2017年10月25日(水) 19:00~20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「ビッグデータとAIが変革する産業分野：農業を事例に」
【講師】慶應義塾大学准教授 神成淳司氏
テーマ「日本の強みを活かしたスマート農業の推進」
【講師】農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室 課長補佐 角張徹氏
- ② 2017年11月1日(水) 19:00~20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「IoTとAIが切り拓く農業の新たなビジネスチャンス」
【講師】日本総合研究所 創発戦略センター シニアスペシャリスト(農学) 三輪泰史氏
- ③ 2017年11月8日(水) 19:00~20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「次世代農業におけるビッグデータ活用に向けて～日本の農業の現場から」
【講師】オーチャードアンドテクノロジー 代表取締役 末澤克彦氏
- ④ 2017年12月6日(水) 19:00~20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「調査訪問内容及び個別テーマに関するディスカッション」
- ⑤ 2017年12月19日(火) 19:00~20:30 @虎ノ門法経ホール
テーマ「個別テーマに関する発表及びディスカッション」
- ⑥ 2018年1月10日(水) 18:30~20:30 @赤坂インターシティコンファレンス
テーマ「個別テーマに関する発表会」

(4) その他

- ※2017年10月23日
ワークショップ「米国・バイオテック投資の最新動向」の開催
- ※2017年11月15日
英国・サービスデザイン企業 Snook との意見交換会開催
- ※2017年12月5日
Mark O'Neill さん(英国政府チーフデジタルオフィサー)を囲む会開催

II. 普及啓発事業

1. 調査研究成果の公表

(1) 報告書の公表

下記報告書を取りまとめ、ウェブサイト上に公表した。

- ① 「サービスデザインの最前線」報告書
2017年7月18日発表
- ② 「IT×ゲノム情報」調査報告書
2017年8月22日発表
- ③ 「英国・公共サービスのデジタル変革」調査報告書
2017年10月20日発表
- ④ 「ビッグデータとAIが変える産業分野：農業を事例に」調査報告書
2018年3月20日発表

(2) 生産性新聞を活用した調査結果の発信

調査結果に基づくコラム記事を生産性新聞に連載。同内容を「IFIT Topics」としてウェブサイト上にも掲載し、成果の普及をはかった。

- IT×ゲノム情報(1)：2017年6月5日号
「ゲノム産業を牽引するバイオ集積地ポストン」

- I T×ゲノム情報(2) : 2017年6月15日号
「「合成生物学の父」チャーチ博士ーゲノム編集が作る未来図」
- I T×ゲノム情報(3) : 2017年6月25日号
「第3世代ゲノム編集技術発明の天才科学者」
- I T×ゲノム情報(4) : 2017年7月5日号
「バイオ産業盛り上げる非営利組織・ボランティア」
- I T×ゲノム情報(5) : 2017年7月15日号
「オープン・イノベーションのすすめ」
- ビッグデータとA Iが変える農業(1) : 2018年2月15日号
「世界の有力企業が競う「アグテック産業」」
- ビッグデータとA Iが変える農業(2) : 2018年2月25日号
「「スマート農業」の進化で生産性を向上」
- ビッグデータとA Iが変える農業(3) : 2018年3月5日号
「「フードバレー」の中心的役割担うワーヘニンゲン大学」
- ビッグデータとA Iが変える農業(4) : 2018年3月15日
「アグテック投資をリードするアンテラ・キャピタル」
- ビッグデータとA Iが変える農業(5) : 2018年3月25日
「ビッグデータ・A I・ロボティクス x 農業の時代の幕開け」

(3) 学会誌への掲載

- 「米国・I Tとサービスデザインの最前線」調査研究報告書
著者：齋藤奈保 国際I T財団 事務局長
掲載：サービス学会誌「サービソロジー」Vo. 4, No. 1
2017年4月28日発行

(4) フェイスブック等SNSを活用した調査結果の発信

- 調査研究メンバーの公募のため、既存のウェブサイトに加え、Facebook 公式アカウントおよびFacebook ページを設置した。Facebook では当財団からの告知や調査報告に留まらず、メンバーによる現地からのリアルタイムの投稿をシェアするなど、インタラクティブな情報発信と拡散が可能となった。

Ⅲ. 法人運営に関わる事業

平成29年6月5日	通常理事会の開催
平成29年6月26日	定時評議員会（書面）の開催
平成29年6月29日	臨時理事会（書面）の開催
平成29年12月6日	臨時理事会（書面）の開催
平成29年12月20日	臨時評議員会（書面）の開催
平成30年3月28日	通常理事会（書面）の開催

平成29年度財務諸表

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	22,003,829	42,940,001	-20,936,172
流動資産合計	22,003,829	42,940,001	-20,936,172
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
定期預金	40,000,000	60,000,000	-20,000,000
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	0
特定資産合計	140,000,000	160,000,000	-20,000,000
(2) その他固定資産			
電話加入権	4,000	4,000	0
その他固定資産合計	4,000	4,000	0
固定資産合計	140,004,000	160,004,000	-20,000,000
資産合計	162,007,829	202,944,001	-40,936,172
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	169,541	29,802	139,739
未払金	754,514	0	754,514
流動負債合計	924,055	29,802	894,253
負債合計	924,055	29,802	894,253
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
一般正味財産への振替額	-20,000,000	-40,000,000	20,000,000
指定正味財産合計	140,000,000	160,000,000	-20,000,000
(うち特定資産への充当額)	140,000,000	160,000,000	-20,000,000
2. 一般正味財産			
指定正味財産からの振替額	21,083,774	42,914,199	-21,830,425
正味財産合計	20,000,000	40,000,000	-20,000,000
正味財産合計	161,083,774	202,914,199	-41,830,425
負債及び正味財産合計	162,007,829	202,944,001	-40,936,172

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	1,734,958	1,990,394	-255,436
②流動資産運用益	5,631	6,474	-843
③事業収入	3,800,000	700,000	3,100,000
④雑収益	305,809	375,155	-69,346
経常収益計	5,846,398	3,072,023	2,774,375
(2) 経常費用			
①一般事業費（調査研究）	45,074,235	25,560,238	19,513,997
②一般事業費（普及啓発）	1,058,407	1,710,034	-651,627
③収益事業費	0	0	0
④管理費			
人件費	380,593	333,309	47,284
事務諸費	1,007,557	795,394	212,163
司法書士費	113,400	27,000	86,400
事務所賃料	40,000	100,000	-60,000
経常費用計	47,674,192	28,525,975	19,148,217
当期経常増減額	-41,827,794	-25,453,952	-16,373,842
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
特定資産取崩収入	20,000,000	40,000,000	-20,000,000
経常外収益計	20,000,000	40,000,000	-20,000,000
(2) 特別損失			
他特別損失	2,631	0	2,631
特別損失計	2,631	0	2,631
当期経常外増減額	19,997,369	40,000,000	-20,002,631
当期一般正味財産増減額	-21,830,425	14,546,048	-36,376,473
一般正味財産期首残高	42,914,199	28,368,151	14,546,048
一般正味財産期末残高	21,083,774	42,914,199	-21,830,425
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	-20,000,000	-40,000,000	20,000,000
当期指定正味財産増減額	-20,000,000	-40,000,000	20,000,000
指定正味財産期首残高	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
指定正味財産期末残高	140,000,000	160,000,000	-20,000,000
III 正味財産期末残高	161,083,774	202,914,199	-41,830,425

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

当該事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 … 購入時の取得価格によっている。(償却原価法については、購入価格と債券金額との差額について重要性に乏しいため、適用していない。)

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 会計方針の変更

当期より費用の計上方法を、現金主義から発生主義に変更した。

これは当期に事業活動の区切りがついたため、期間対応させるためである。

この変更により、正味財産が 754,514 円減少している。

4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
定期預金	60,000,000	0	20,000,000	40,000,000
普通預金	0	0	0	0
有価証券	100,000,000	0	0	100,000,000
合計	160,000,000	0	20,000,000	140,000,000

5. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
定期預金	40,000,000	(40,000,000)		
有価証券	100,000,000	(100,000,000)		
合計	140,000,000	(140,000,000)	(0)	(0)

一般財団法人国際IT財団

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
(満期保有目的の債券) 仕組債：エスエムビーシー ニッコウショウケン	100,000,000	100,060,000	60,000
合計	100,000,000	100,060,000	60,000

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額 特定資産運用益計上による振替額	1,734,958
合計	1,734,958

附属明細書

1. 特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定 資産	定期預金	60,000,000	0	20,000,000	40,000,000
	普通預金	0	0	0	0
	有価証券	100,000,000	0	0	100,000,000
	特定資産計	160,000,000	0	20,000,000	140,000,000